

耐火措置
工法部材

新製品戦略を加速

因幡電機産業因幡電工カンパニー

配送網充実 拡販へ

縦引配管固定
金具の新製品も



葛山 豊電工
カンパニー 社長

因幡電機産業(社長葛山豊一氏、大阪本社・大阪市西区立売堀4-11-14)の因幡電工カンパニー(因幡電工)は、2023年度上期に空調関連工事部材の販売実績が期待値ほどの伸長に至らなかったが、下期以降、国内での需要が回復傾向にあることを踏まえ、新たな商品戦略と販売促進活動を加速する構えだ。

ルット営業では、物流拠点の分散化で顧客への商品配送網が充実した点を強みとし、在来品のさらなる拡販につなげる。商品戦略では、「省施工」提案の新たな切り口として、防火区画貫通部耐火措置工法部材の新製品と、縦引配管固定金具の新製品を昨夏に発売した。新年以降、両製品の提案営業を一層加速する。

昨年の国内空調業界は、業務用パッケージエアコン(PAC)、住宅用ルームエアコン(RAC)共に需要が振るわず、因幡電工の空調関連工事部材の販売動向も機器の出荷動向と同期した。葛山豊電工カンパニー社長は事業概況について「昨夏は前例のない猛暑と報じられたが、23年度上期の商材販売動向は出足が鈍かった。盛夏に東北や北海道で需要が向上

いたものの、全国的な傾向としては伸びを欠いた」と振り返る。PAC分野では、市場ボリュームの大きい首都圏での再開発に伴う新築物件の建設動向が端境期にあったことが需要停滞の要因の一つ。また店舗・事務所用PACやRAC分野では、新型コロナウイルスの感染禍にあった2020~22年の間、政府が新型コロナ対策として予算化した補助事業や特別定額給付金の支給が、結果としてエンドユーザーの感懐に届かなかった。2022年、政府が新型コロナ対策として予算化した補助事業や特別定額給付金の支給が、結果としてエンドユーザーの感懐に届かなかった。2022年、政府が新型コロナ対策として予算化した補助事業や特別定額給付金の支給が、結果としてエンドユーザーの感懐に届かなかった。

新たな商品戦略も動き出している。防火区画貫通部耐火措置工法部材の新製品「スリーブワン」(耐火貫通スリーブRT-IRKSR-T※特許出願中)を昨年7月に発売。鋼製スリーブ一体型製品という特長を前面に出し、冷媒配管時の防火区画貫通部での省施工提案で新製品の浸透を図っている。縦引配管固定金具についても、施工のばらつきがない上、無火気の施工で配管を固定できる新製品「パイプロック」(パイプロック)を昨年7月に発売。縦引配管の負荷部分での座屈を防ぐ省施工提案に乗り出している。

両製品ともに総合設備会社や空調工事店からの受注が既に立ち上がっている。さらに「スリーブワン」を含む耐火商材に関しては、ソフトウェアを用いて耐火商材を容易に選定できる「耐火選定ツール」を開発。因幡電工専用ウェブサイトで無償サービスコンテンツ

として同サイト上にアップしている。同ツールでは、壁などの構造体の情報、貫通する配管の種類・サイズなどの諸条件を利用者が入力すると、因幡電工が扱う耐火商材が建築基準法や消防法に規定の防火性能に基づき使用できるかどうか、また使用できる場合には、どの商材が適切なかを瞬時に判定できる。ただ葛山カンパニー社長は「耐火選定ツール」をお客さまにご提供しているという周知が不十分(同)と指摘。因幡電工は同ツールの利便性を訴求するため、新年以降、キャンペーンを実施する計画。

今年1月30日から4日間、東京ビックサイト(東京都江東区)で開催される第43回冷凍空調・暖房展「HVAC&R JAPAN2024」にも出展し、これらの新製品・サービスツールを展示する。同展への出展時には「配管化粧カバー」

新色や配管周りの結露対策を想定したコンセプトモデルの参考出品も予定している。(企画室 坂上田昌紀社長)

因幡電工は新年以降も各種省施工商材の開発・提案を事業活動のベースロードとしつつ、建設業界で今後導入が進む3次元モデリング技術「BIM」に対応したアウトプットデータ化やソフト商材の開発にも注力する方針。国内事業と並行し、海外事業の拡大も志向。米国の現地法人「Inaba Denko America, Inc.」の社長を兼務する葛山カンパニー社長は北米での事業展開について「現地のニーズを捉えたローカルイノベーションを推進したい」との意向を示す。現地での市場調査を継続するとともに、海外生産拠点での製品開発や増産体制を整えていく構え。

欧州市場では、現地販売代理店との関係深化に取り組みのほか、展示会での訴求も強める方針。3月にイタリアで開催予定の「モストラ」10月にドイツで開催予定の「チルペンタ」といった現地での冷凍・空調・暖房関連展示会への出展を予定している。日本国内で培った空調関連工事部材トップのブランド力を海外にも波及させる活動も強化していく。



「モストラ」展の因幡電工ブース

因幡電工は、今年1月30日から4日間、東京ビックサイト(東京都江東区)で開催される第43回冷凍空調・暖房展「HVAC&R JAPAN2024」にも出展し、これらの新製品・サービスツールを展示する。同展への出展時には「配管化粧カバー」

北米輸出事業が始動 国内では架台・フード販売伸長



根上 幸久社長

023年事業は全般に堅調な一年となった模様。Nemiの根上幸久社長は昨年事業について「新型コロナウイルス感染症の終息で回復感を強める空調・冷熱設備投資に呼応する形で、空冷モジュールチラー用防振架台やPAC、VRF、設備用PAC等の業務用エアコン向けの防雪フードの販売を大きく伸ばせた。また、電力料金が高止まりしたなかで、通風遮光ネット『シャネット』への市場の支持が拡大している。さらに昨年は、北米市場向けの防雪フード輸出も始まるなどグループ全体で実り多い年となった」と振り返り、本年は感染禍明けの景気回復度合いが一段と高まることを見越し、全方位での事業拡大を目指したいとし、併せて、省エネ相談事業、LED照明販売・施工、

令和6年新春特大号

工事部材

配管資材の総合メーカー、オンダ製作所(社長 梶山由紀氏、本社・岐阜県関市広見851-3)の2023年業績について、新設住宅着工は減少基調だった反面、旺盛なリフォーム・リニューアル需要を背景に前年比プラス着地となった模様。2024年もリフォーム・リニューアル

ト管付架橋ポリエチレン管低巻きせタイフ「コルゲート」シリーズ、外径シールカポリ、樹脂製ファンタック継手「Revos」レボス、リフォーム配管システム「スポットカバーステム」、「フラットカバー」など市場で高評価の製品群に加え、WV型流量調整バルブ、既設三管交換継手シリーズ、既設管

現場に寄り添う新製品続々

絶対もらえるキャンペーン全国展開

商品動向では、自然冷媒ヒートポンプ給湯器「エコユニット」のヒットがユニットの貯湯タンク間の配管に適する「カポリエ」の販売を再開する

ととともに、肉厚3.6mmの「特厚カポリパイプW(20追加)」の販売を始めた。

販売を再開した「カポリエ」は、耐孔食銅合金管と耐熱ポリエチレン層の二層管構造で銅合金管の強度と樹脂管の施工性を兼ね備える。「特厚カポリパイプW」は、耐熱性に優れた被覆材を採用したほか、付属の継手用保

33年度 世界経済 高い成長を遂げた。中国やインドの経済成長が牽引役となり、世界経済は堅調な回復を遂げた。しかし、ロシアの侵襲や、欧米のインフレ圧力、中国の経済減速などにより、世界経済は弱体化の傾向にある。日本は、内需の回復と、海外市場の拡大を目標とし、経済成長を遂げたいと考えている。